

創立四十周年



賢く 優しく 逞しく

7月号・令和2年7月1日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/>

武蔵村山市立第五中学校

塞翁（さいおう）が馬

校長 榎戸 千代子

早いもので7月を迎えました。陰暦（旧暦）では月名で各月を表し、7番目の月を「文月（ふづき・ふみづき）」とよんでいます。現在、これを陽暦（新暦）にあてはめると1か月ほど遅いので、7月下旬から9月上旬頃にあたります。「文月」の由来は、短冊に歌や文字を書いて書道の上達を祈った七夕の行事にちなみ、「文披月（ふみひらづき）」が転じたとする説の他、稲穂が膨らむ月であるため、「穂見月（ほみづき）」からの転とする説など、様々あります。例年7月の中旬頃には梅雨が明け、日に日に気温も上昇して、夏本番を迎えます。先人たちは、風鈴やうちわ、打ち水、すだれなどで涼を感じる知恵がありました。



さて、授業が再開され1か月が過ぎました。子供たちも学校生活に慣れ、学習に励んでいます。暑さも厳しくなってきました。新型コロナウイルス感染症の他、熱中症も心配されます。登下校の際、気分が悪くなった時は、お互いに距離をとってマスクを外してもかまいません。また帽子や日傘なども御活用ください。

ところで本校では、夏休み期間中に念願の特別教室（美術室、理科室、家庭科室、技術室、視聴覚室等）と体育館に冷房工事が入ります。工事期間中に夏休みの補習教室や三者面談が予定されていますが、安全に配慮して行います。残暑厳しい9月にはエアコンが使用できるとうれしいですね。

ところで、中国の故事成語で「塞翁が馬」、あるいは「人間万事塞翁が馬」という格言があります。「塞翁が馬」の「塞翁」とは、北方の「砦・塞（とりで）」に住むとされた老人（翁）のことで、出典は、中国前漢時代の思想書『淮南子（えなんじ）』「人間訓」の故事からきています。

国境近くの塞（とりで）に住んでいた老人（翁）は、ある日飼っていた馬に逃げられてしまった。近所の人たちが慰めると「これは幸運なことである」と翁は話をした。すると逃げた馬がやがて立派な馬（駿馬）を連れて帰ってきたので、人々がお祝いに行くと、塞翁は「これは災いになるだろう」と言った。塞翁の息子が駿馬に乗って遊んでいたら、落馬して足の骨を折ってしまったので、人々がお見舞いに行くと、塞翁は、「これは幸いになるだろう」と言った。やがて隣国での戦争が起こり、若者たちは徴兵されたが、塞翁の息子は足を骨折していたため、兵役を免れ、命が助かった。この故事から、「人間の禍福（幸不幸）は予測できないものだ。自分が遭遇した幸不幸の出来事に一喜一憂する必要はない」という意味で使われています。

今、学校現場では平常授業が行われ、普段の生活に戻りつつあります。しかし、今までと決定的に違うのは、「新型コロナウイルス感染症防止対策」を行って活動していることです。その中で、臨時休業時の授業時数をどう補うのか、教科書は終わるのか、高校入試はどうなるのか等、様々な課題に対して対応が求められています。本校では長期休業中や土曜日授業を実施し、夏季休業中や放課後に補習を行って2か月分を補っていきます。また、年間指導計画を見直し、学校でやることと家庭でできることを分け、子供たちの「学習の保障」を進めていきます。教員も、残り時数を逆算し、どの単元を何時間でどう扱うか、今まで以上の工夫・改善を行いながら取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルス対応で様々な行事が中止になったり、内容の変更を迫られたりするなど、残念な部分もたくさんあります。しかし、まさに「塞翁が馬」、ピンチをチャンスに変え、限られた中で精一杯子供たちのためにできることを考え、「チーム五中」で取り組んでまいります。また、夏季休業中には三者面談を行います。何か心配事等がございましたら遠慮なく担任に御相談ください。今年度よりスクールカウンセラーも2名配置となっております。御活用ください。